

平成31年度入学試験問題（前期日程）

国語

出題意図及び正答

問題一

出題意図

常用漢字について、正しい読み方と書き方を習得しているかを問うている。

正答

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
かんまん	うらや	さげす	へいそくかん	滑	嘲笑	密生	狭	肥大	痛快

問題二

出題意図

評論を正確に読み比べ、問題に対して的確な表現で解答できるかを問うている。

正答

問一	抽象的な事柄などを、具体的な事物によって理解しやすい形で表す。 不適當なものが排除される。
問二	略
問三	略
問四	略
問五	略

問題三

出題意図

小説を正確に読み、問題に対して的確な表現で解答できるかを問うている。

正答

問一	略
問二	略
問三	略
問四	略
問五	略

問題四

出題意図

古文を正確に読み、問題に対して的確な表現で解答できるかを問うている。

正答

問一	①イ ②ウ ③ア
問二	略
問三	略
問四	略
問五	略

問題五

出題意図

漢文を正確に読み、問題に対して的確な表現で解答できるかを問うている。

正答

問一	ア
問二	極 処
問三	略
問四	人をして虫を取り酒中に置かしむ 武帝は従者に虫を取らせて、それを酒の中に置かせた。

平成三十一年度入学試験問題

国 語

注 意 事 項

1. この問題用紙は試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答用紙は問題用紙とは別になっています。解答はすべての解答用紙の指定されたところに記入しなさい。それ以外の場所に記入された解答は、採点の対象となりません。
3. 受験番号を解答用紙の指定されたところへ正しく記入しなさい。
4. 問題用紙の落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、監督者に申し出なさい。
5. 問題用紙の余白等は適宜利用してよいが、破いたり切り離したりしてはいけません。
6. この問題用紙は持ち帰ること。

前 期 日 程
国 語
問題用紙12枚中 1枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

一 次に挙げる傍線部の単語について、1～4の読み方をひらがなで、5～10のカタカナを漢字で記しなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること)

- 1 緩慢な動きをする。
- 2 皆が羨む仲の良さだ。
- 3 蔑むような目つきで見る。
- 4 閉塞感を覚える。
- 5 表面をナメらかにする。
- 6 情けない姿をチヨウシヨウする。
- 7 林の中にミツセイする。
- 8 出入口がセマい。
- 9 木の根がヒタイした。
- 10 君の話はツウカイだ。

二 次の【文章A】と【文章B】を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること)

【文章A】

前 期 日 程
国 語
問題用紙12枚中 2枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

(石川九楊『縦に書け!』祥伝社、二〇〇五年、六七〜七一頁より。

なお、本文は一部表記等を省略・変更している。)

【文章 B】

前期日程

国語

問題用紙12枚中 3枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

前期日程

国語

問題用紙12枚中 4枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

(屋名池誠『横書き登壇』岩波書店、二〇〇三年、一九二〜一九五頁より。

なお、本文は一部表記等を省略・変更している。)

問一 【文章A】の ①「象徴する」、【文章B】の ②「淘汰される」の文脈上の意味がわかるように、それぞれ簡潔に言い換えなさい。

問二 【文章A】と【文章B】の文体について、Aは敬体、Bは常体で記されているが、このような文体が読者に与える表現効果について、それぞれ説明しなさい。

問三 日本語における書字方向の在り方について、【文章A】の筆者は、どのような論点から縦書きの価値・重要性を訴えているか、簡潔に説明しなさい。

問四 縦書きの価値・重要性を訴える【文章A】の筆者に対して、あなたが【文章B】の筆者であればどのような反論をすることになるか、【文章B】の内容を踏まえて述べなさい。

問五 【文章A】と【文章B】の内容を比較し、二つの文章の筆者が納得すべき「今後の日本語の書字方向スタイル」はどのように考えられるか。次の条件に従ってあなたの見解を述べなさい。なお、書道のように文字のかたちそのものを目的とする分野については考慮しないでよい。また、それぞれの問題文の内容について触れる場合は「A・B」と略してかまわない。

- ① 第一文：自分の見解を述べること。
- ② 第二文以降：【文章A】・【文章B】の内容に触れながら、自分の見解の論拠を述べること。
- ③ 末文：冒頭を「ただし」で始め、自分の見解に限定を加えること。
- ④ 二百字以内でまとめること。
- ⑤ 改行はしないこと。句読点も一字に数える。

※次のページに下書き用紙があります。

前 期 日 程
国 語
問題用紙12枚中 6枚目

平成三十二年 度 信州大学教育学部 入学者選抜試験

三 次 の 文 章 を 読 ん で 、 あ と の 問 い に 答 え な さ い 。 (解 答 は 所 定 の 解 答 欄 に 記 入 す る こ と)

前 期 目 程

国 語

問題用紙12枚中 7枚目

平成三十二年 度 信州大学教育学部 入学者選抜試験

(中村文則「蜘蛛」、『惑いの森』文藝春秋、二〇一八年、三四〜三七頁より。

なお、本文は一部表記等を変更している。)

前 期 日 程
国 語
問題用紙12枚中 8枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

- 問一 「僕」の言葉はカギ括弧（「」）でくくられ、「蜘蛛」の言葉はダツシユ（―）で始まっている。これら二つの記号はどのように使い分けられているか、簡潔に説明しなさい。
- 問二 傍線部①②「あの蜘蛛」の指示内容には違いが見られる。どのように異なるか、簡潔に説明しなさい。
- 問三 「蜘蛛」が「僕」に呼びかける際、「あなた」と「きみ」の二種類の呼称が用いられている。それぞれの指示内容を簡潔に説明しなさい。
- 問四 傍線部③「たとえ闇でも、きみにはあげない」とあるが、「僕」がこのように決断したのはなぜか、簡潔に説明しなさい。
- 問五 序盤と終盤に「カーテン」が二度描かれることを通して、どのようなことが表現されているか、説明しなさい。

前 期 日 程
国 語
問題用紙 12 枚中 9 枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部 入学者選抜試験

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること)

(『古本説話集』より)

(三木紀人他校注『宇治拾遺物語 古本説話集 新日本古典文学大系42』岩波書店 一九九〇年、
四二三―四二四頁より。なお、本文は一部表記等を変更している。)

前 期 日 程
国 語
問題用紙 12 枚中 10 枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

注

※平中——人名。平安時代の歌人・平貞文のこと。

※いちはやく言ひければ——恐ろしくきびしくののしつたので。 ※世の中——男女の仲。

※料——材料、道具。 ※硯瓶——硯に注ぐ水を入れる器。水入れ。 ※出居——客間。 ※間木——柵。

※畳紙——折りたんで懐中に入れておき、鼻紙や歌などを書くのに用いた紙。懐紙。

※十字——フトモモ科の常緑高木。口鼻消しとして口に含んで用いる。 ※沃棄てて——注ぎ棄てて。

※風の物——ここでは風の糞のこと。 ※夕さり——夕方。

問一 傍線部①「追ひ出だしけり」②「言ひけり」③「おこせたる」について、それぞれの主語（誰が）として適切なものを次のア～ウから選び記号で答えなさい。

ア いみじく思ふ女 イ 妻 ウ 平中

問二 傍線部④「忘らるな 忘れやしぬる 春露^{はるなつ} けさたちながら 契りつる事」について、以下の条件に沿って現代語訳しなさい。

条件1 和歌の中に掛詞が使用されていることがわかるように訳出すること。

条件2 「契りつる事」の内容がわかるように訳出すること。

問三 傍線部⑤「我ながらいと恐ろしげなり」とあるが、これは「平中」のどのような状態を指しているものか、簡潔に説明しなさい。

問四 傍線部⑥「いといとあさましく心憂くて」とあるが、「平中」は何に対してこのように感じたのか、簡潔に説明しなさい。

問五 この説話は前半部 (A) と後半部 (B) の二部構成になっている。前半部に対して後半部が加わったことよって、「平中」の人物造型は変化しているといえるだろうか。以下の条件をふまえて、あなたの考えを述べなさい。

条件1 平中の人物造型は「変化している」か「変化していない」か、いずれか一方の立場を選択すること（解答欄に○を付すこと）。

条件2 あなたが読み取った「平中」の人物造型を明示しながら述べること。

条件3 あなたの考えの根拠となる内容を本文の前半部 (A) および後半部 (B) からそれぞれ一ヶ所ずつ引用しながら（十字程度）、理由を述べること。

前 期 日 程
国 語
問題用紙12枚中 11枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(解答は所定の解答欄に記入すること)

(『古小説鈎沈』より)

(中島長文他『魯迅『古小説鈎沈』校本』京都大学文学研究科中国語学中国文学研究室、二〇一七年、一八六～一八七頁より。一部表記等を変更し、訓点を施した。なお、設問の関係で一部訓点を除いた箇所がある。)

注

※武帝——中国前漢の皇帝。

※甘泉宮——中国の古代の離宮。

※朔——東方朔。武帝に仕えた人物。

※拘繫——捕らえて牢屋に入れること。

※無辜——無実。

※衆庶——民衆。

※上天——大空。

※靡散——なくなること。

前 期 日 程
国 語
問題用紙 12 枚中 12 枚目

平成三十一年度 信州大学教育学部入学者選抜試験

問一 傍線部①「具」と同じ意味を表すものを、次のア～オから一つ選び記号で答えなさい。

ア 具備 イ 道具 ウ 表具 エ 敬具 オ 具申

問二 傍線部②「対曰」で始まる発話部分はどこまでか、末尾の二文字で答えなさい。

問三 傍線部③「名「怪哉」とあるが、このような名前が付けられるに至ったいきさつを説明しなさい。

問四 傍線部④「使「人取」虫置「酒中」について、次の設問に答えなさい。

- a 書き下し文にしなさい。
- b 主語を補って口語訳しなさい。

平成三十一年度個別学力検査（教育学部 前期日程）

問題訂正 「国語」

【問題用紙】

12 枚中 3 枚目

(誤) 今後の日本の標準的な書字方向スタイル

(正) 今後の日本語の標準的な書字方向スタイル

~~~~~  
線部追加